エネルギア総合研究所研究開発ビジョンの策定

エネルギア総合研究所　企画・調査担当　武内　保憲

1 研究開発ビジョン策定の背景

昨今の当社を取り巻く事業環境を見てみると，原油価格の乱高下や低炭素化社会への移行対応，さらには3E※1実現のために必要不可欠な原子力開発までもが不透明となりつつあり，事業環境の不確実性が高まっていると言わざるを得ない。また，太陽光発電などの分散型電源が大量に導入されたときの電力品質（電圧や周波数）安定化技術や単独運転防止技術，二酸化炭素回収・貯留技術などの新しい技術も必要となりつつあり，技術面での不確実性も高まりつつある。すなわち，図1に示すように当社の技術経営における重要事項は，オペレーションの効率化が重要とされる「業務執行タイプ」から，技術戦略・マーケティング・事業化が重要とされる「戦略タイプ」にパラダイムシフトされつつあると考えられる。

したがって，今後は，これまでとはまったく別の事業環境が展開されると想定され，従来と同様あるいは従来の延長線上での対応では，当社の存続自体が危ぶまれることになりかねない。

そこで，エネルギア総合研究所では，所員全員が事業環境を正しく認識し，「将来にわたって当社が存続・発展していくために何をなすべきか」という課題とその対応についての認識を共有することを目的として，「エネルギア総合研究所研究開発ビジョン」を策定しているので，その取組みの概要を紹介する。

2 研究開発ビジョン策定の取組みの概要

当所では，これまで中国電力グループ，地域のお客さまや企業からの期待に応えることができる成果の創出を目指して様々な研究開発を行ってきたが，短中期的な視点で，かつ狭い想定幅の範囲内の研究開発が中心であった。

今後想定される不確実性が高く，変化も早い事業環境の中では，図2に示すように，より長期的な視点で，かつより広い想定幅の範囲の研究開発に取組む必要があると考えられる。

そこで，まず，シナリオプランニング手法を用いて20年程度先の当社の事業環境に関する複数の将来シナリオを作成することにした。

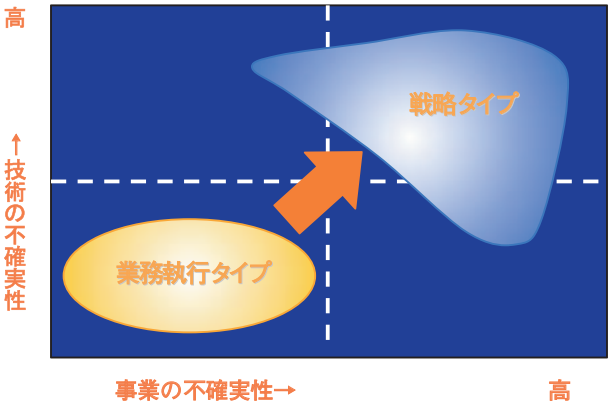
そして，作成したシナリオをもとに20年程度先の時点から現在を見たときの課題を抽出して時系列に展開させることにより，当所が取組むべき技術開発のロードマップを作成し，シナリオと合わせて研究開発ビジョンにすることとした。

研究開発ビジョンの策定は，所員が自分の立ち位置を再認識し，誇りと志を持って仕事に取組むためにも必要なものであると考えており，当所の人材育成ビジョンの主要な取組み方策の1つとしても位置づけられている。

当所では，本研究開発ビジョンのスローガンとして「夢ある未来づくりへの挑戦」を掲げ，昨秋から試行している。

今後は，事業環境の変化を反映することによりシナリオやロードマップを適宜刷新・充実していくとともに,所員全員で共有化し,本格運用していく予定である。

※1：Energy Security（供給安定性）
Economic Growth（経済性）
Environmental Conservation（環境保全）



（出所）三菱総合研究所「MOTガイドライン」より
図1　技術経営における重要事項のパラダイムシフト

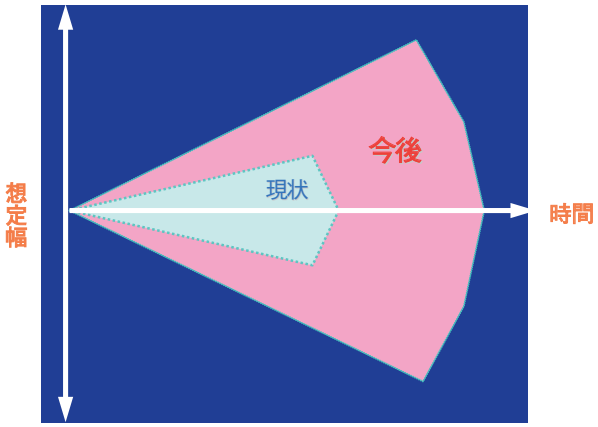


図2　研究開発の事業環境想定範囲の拡大